

栃木

市区町村名	木の名前	木の画像	花の名前	花の画像	コメント・備考	入力日
益子町	あかまつ		やまゆり		「あかまつ」は、町内の山に数多く自生しており、古くから窯業の燃料としても利用されてきました。焼きもののふるさと益子のシンボルともいえる木です。「やまゆり」は、ユリ科の多年草です。山野に生え、高さが1m位になります。夏になると赤い斑点のある香り高い白い花が咲きます。	2007/10/29
大田原市	イチョウ		キク		・イチョウの写真は、薬師堂境内のイチョウ。手前にあるのは貞享元年(西暦1684年)建立の七重の塔。 ・毎年11月に産業文化祭の会場で大田原市菊花展が開催され、訪れる多くの人の目を楽しませています。 また、市内の小中学校では、教育祭への出品を目指し、地域の高齢者や専門家の指導を受けてキクの栽培に取り組んでいます。	2007/10/29
鹿沼市	杉		さつき			2007/10/29
二宮	さくら		いちご			2007/10/29
壬生町	えのき		ゆうがお			2007/10/31
小山市	シラカシ		オモイガワザクラ			2007/11/6
那珂川町	まつ		かたくり		「まつ」は、古来より日本文化を象徴する樹木であり常緑樹として周年、緑葉を茂らせることから若さ、不老長寿の象徴とされています。厳しい環境の中でもたくましく根を張り、力強く勇壮な姿は活力あるまちづくりを目指す那珂川町のシンボルとしてふさわしい木です。 「かたくり」は、早春に薄紫色の花を咲かせます。万葉集に詠まれている「堅(かた)香子(かご)の花」が「かたくり」ではないかと言われています。小さな花一つ一つが控えめな中にも美しく、群生する様は見る者に感動を与えることから、協働のまちづくりを目指す那珂川町のシンボルとしてふさわしい花です。	2007/11/9
真岡市	けやき		わた		江戸時代後期真岡木綿は年間38万反余の生産を誇り、栽培から生産までの一貫システムによる品質のよさで全国に知られました。 可憐清楚な淡い黄色の五弁の綿花は、そんな真岡の歴史を物語っているようです。真岡市長賞メダルの図案にもなっています。	2007/11/14
宇都宮市	イチョウ		さつき		・イチョウは、市民の公募において圧倒的な人気で宇都宮のシンボルとなりました。市の天然記念物に指定された、樹齢400年の大イチョウは、四季折々に姿を変え、長年市民に親しまれています。 ・さつきも「郷土の花」として選ばれ、一本の木で様々な色彩になったり、まとまって咲いたり、色々な表情を楽しませてくれます。	2007/11/21
足利市	総称した かえで		総称した つつじ		両崖山の麓、渡良瀬川をいただき、この美しい自然と澄んだ空気に恵まれた足利市は、自然を大切に守り育て次代へと引き継いで常に緑と花につつまれた快適な市民生活環境の保全を願い、昭和49年に新庁舎落成を記念して、市の木及び市の花を制定しました。 「市の木、市の花」の制定については、市民アンケートを参考にし、市の木を名草の石割り楓を象徴し「かえで」とし、また、市の花については足利公園のツツジを象徴し「つつじ」としました。	2007/11/30

那須町	ゴヨウマツ		リンドウ	<p>「ゴヨウマツ」は、古い時代より那須岳一帯に自生し、那須の景観を一層豊かにし、町民に親しまれています。</p> <p>常盤の緑を保ちながら自然の風雪の耐えるその樹形は、真にたくましく、美しいものです。幹は天を仰ぎ、力強く勇壮。町民の心意気と限りなく発展する那須町を象徴するにふさわしい木であるといえます。</p> <p>「リンドウ」は、その種類も多く那須野ヶ原一帯に自生し春から秋にかけて咲き誇ります。そのすがすがしい藍紫色の花の姿は、清そにして気品を保ち、私たちの心をなごませてくれ、多くの人々に親しまれています。</p> <p>特に初秋の澄みきった空に映えるリンドウは、自然に恵まれた那須町のシンボルとしてふさわしい花といえます。</p>	2008/7/2
茂木町	けやき		ききょう		2008/7/10